

プロテクション講習会～野北海岸～

【報告者】A屋

【日時】2019年3月24日

【天候】晴

【参加者】A屋、マサ、I藤、H田、H塚、K橋、アキラ

《コースタイム》

24日 9:15 野北海岸駐車場～海岸の岩場で講習会～15:30 終了

《 報 告 》

講習会の実施内容は下記のとおり。

1. プロテクション講習会の背景と実施の目的
2. ギアの説明と残置支点の種類や使用上のポイントについて説明・情報交換を行う。

ギア等	説明・コメント
カム	4枚のブレードが岩に接触し、力のかかる方向に向けて設置。 クラックの奥の突き当りにぶつかるよう押し込んでしまうと回収が困難になる。
トライカム	ナッツとスリングが一体になったようなデバイス。凍らず雪山でも有効
ナッツ	一方向にみに効くため、支点にする際には正対する方向に二つ以上設置。 朽ちたリングボルトの根元にカムのワイヤー部をかけてナッツで締めるという利用シーンもある。
カラビナ	支点にかける際、カラビナに岩角が接触してテコの原理で強い力がかからないように注意
ハーケン	軟鉄とクロモリがある。軟鉄は回収が困難。浅打ちのハーケンは根元にスリングをタイオフして使用する。クロモリ回収時は左右に叩きながらハーケンをずらしていく。ハーケンの穴に細引きのループを設けておくと、落下防止になる。
アルパインピトン	雪山などにおいて凍った草付き（土の地面）に打ち込む。
ハンマー	登山用が便利。脱落防止用に細引きを通す穴がある。ハーネスに携行するための工夫が必要。ピックを釘抜きのように利用することもできる。
捨て縄	7mm×5～7m を携行しておくとう便利。支点用スリング、大きな岩にかけるスリング、引き上げシステム用補助ロープ、即席あぶみ、短い懸垂下降、お助け紐、などの用途に利用できる。 残置されている捨て縄のスリングの強度は、基本的に信用しない。
ナイフ	捨て縄の切り出し、残置捨て縄の回収用に。携行しやすいのが便利。
ハンガー	支点強度：ハンガー>RCCボルト>リングボルト
RCCボルト	リングボルトは人工登攀用で、支点には利用しない。
リングボルト	さび、破損、ボルトの緩みなどは強度が落ちていると考える。 設置されている岩の脆さや、岩の端に打設されていないことを確認。



プロテクション類

3. 支点構築と懸垂下降の練習

2, 3m の岩場の上にカム 2 つで支点を構築し、体重をかけて強度を確認。バックアップ付きの懸垂下降の基本動作の練習を行った。

4. 自然物を用いた支点構築

自然物で支点になり得るものを見つけ、それらの強度を確認した。

- 立木にタイオフ
- ピナクルにスリングをかける
- チョックストーン（自分で石を挟む）にタイオフ
- 草付きにタイオフ
- 捨て縄をダブル・フィッシャーマンズ・ノットでスリング作成、大きな岩に捨て縄をまわして支点を構築

5. ハーケンによる支点構築

岩の隙間（リス）にハーケンを打ち込み、支点を構築し、懸垂下降を行った。

- 適度なリスを探し、周囲をハンマーで打鍵することで岩質の評価
- ハーケンの打ち込み。音の変化で効き具合を確認
- 2 枚のハーケンから流動分散支点を構築
- 懸垂下降
- ハーケンの回収（左右からハーケンを叩いてずらす、ハンマーのピック部で釘抜きのように使用、時間を要することもあった。）

6. 各種プロテクションを設置しながらトラバース練習

落ちても怪我しない程度の低い岩場で、カム・ナッツ・ピナクルで中間支点を取りながら岩場をスタカットでトラバースする練習を行った。実施後に、プロテクションを取る場所やギアの使い方などについて皆で講評した。

まとめ

登攀中のプロテクション設置は経験あっても、懸垂下降など脱出の支点としてハーケンなどを自分で設置する機会はなかなかない。いざ自分が設置したプロテクションに全体重を預けて懸垂下降しなければならない局面で、これらが十分効いているのか判断できるよう、事前にギアの利用方法について練習しておくことが重要である。ハーケンなどは岩を傷つけるため、野北海岸など練習できる岩場が限られてくるだろう。



《 I 藤 所感 》

ギアの選択や設置は難しく、岩の硬さや丈夫さ、形状やサイズ、手持ちのギアリストやルート状況から判断して選択する。

カムデバイスはクラックの幅に合わせるのであるが、レバーを目いっぱい引かず 8 割程度で設置することを知った。

ところが、今回、自分のカムデバイスのレバーが動かなくなるというアクシデントが生じた。単なるコレクションのようになってしまい、本チャンでなくて良かったと心底から救われる思いがした。帰宅後、水洗い、乾かし、注油をしたが、レバーを引いてもやはり微動だにせず、メンテナンスを怠っていたのか？と自問した。しかし、メンテナンスするほど使用していないので、潮風による化学反応かなとも考えられた。

書籍によると、ALIAN カムデバイスは、カムサイドがつぶれるとカム同士がこすれて、動かなるとのこと。対処法として、サイドのバリを削るらしい。中には、自分で修理をする者（←自己責任）がいるようだが、構造や機械工学もイマイチ分からないので、餅は餅屋ということで、修理依頼をすることとした。山道具は、命を預ける高額な物ばかりである・・・。



ナッツについて、

ナッツはカムの強度より相対的に小さいので、購入する気には未だなれずにいる。ロープなどで引かれると外れ易い。

設置の仕方について、ナッツをカラビナから 1 個ずつを外すのは間違い。通常、一つのカラビナにサイズの異なったナッツを 5、6 個掛けており、その中からクラックの大きさに最適なものをセットしたら、残りの束をつかんでインパクトを加えながら墜落時の方向に負荷を掛け、固定する。固定すれば、ナッツのヘッドが回転しないかどうか効きを確認する、ということも今回も改めて勉強させて頂いた。

プロテクション類の適切なセットには習熟が必要であり、カムやナッツが完璧に決まるとすごく気持ちいいのだろうな。

（ I 藤 ）